

四尾連湖

四尾連湖は、内八海で富士山から最も遠いところにあります。精進湖から9 km 北西に位置するこの湖は、一部が蛾ヶ岳に囲まれています。冷たく穏やかな湖水を湛えた四尾連湖の海拔は850mです。この高い標高にしばしば漂う霧は、この地域の比較的奥まった場所柄と相まって、神秘的な雰囲気を作り出しています。ある富士講が湖岸に建てた尾崎龍神を祀る石碑は、ここが彼らにとって信仰的な重要性を持つ場所だったことを示しています。

富士講の巡礼者たちがどのように四尾連湖に向かっていたかは分かっていません。研究者たちは、巡礼者は精進湖の北岸にある集落から女坂（当時は阿難坂と呼ばれていた）という峠を登った後、山地の肩部に散在する村々をつなぐ道をたどったのではないかと考えています。また、本栖湖から稜線沿いのルートを通った可能性もあります。